

# 2025年度 環境経営レポート

(2025年1月～2025年12月 対象期間 )



2026年3月31日 発行

日野屋貿易株式会社



®環境省

エコアクション21

認証番号 0004330

## 目 次

I. 環境経営方針	P3
II. 登録事業所の概要	P4
III. 主な環境負荷の実績	P4
IV. 日野屋貿易株式会社 環境経営実施体制	P5
V. 環境経営目標及びその実績	
(1) 中期目標	P6
(2) 対象期間（2025年度）の実績	P7
VI. 環境関連法規制等の順守状況	P8
VII. 代表者による全体評価と見直し・指示	P8
VIII. 環境配慮商品例	P9

# I. 環境経営方針

## <環境理念>

私たちは、ますます深刻化する地球温暖化や、今後予想される地下資源の枯渇への対応が人類共通の重要課題との認識にたち、取扱製品の企画立案・設計・製造委託・販売等の事業活動において、環境負荷の低減を図るために、全社一丸となって自主的・積極的に、持続可能な環境保全活動に取り組みます。

## <環境保全への行動指針>

1. 次の事項について環境経営目標・環境経営計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善を行い、汚染の予防に努めます。
  - ①電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
  - ②廃棄物排出量の削減（3R－減量、再使用、再生利用の推進）
  - ③節水意識向上、節水努力
  - ④自ら購入使用する商品のグリーン購入推進
  - ⑤自らが生産・販売・提供する製品商品及びサービスに関する環境配慮
    - ・ 資源の有効活用（ワンウェイ容器→リターナブル容器の紹介、販促活動）
    - ・ 廃棄物再生利用（リサイクル原料使用製品…パレット等の紹介、販促活動）
    - ・ その他環境関連商品（エコマーク商品等）の紹介、販促活動
2. 環境関連法規制及びその他の要求事項を遵守します。
3. 環境への取り組みを環境経営レポートとしてとりまとめ公表します。
4. 本方針を全従業員（パートタイマー含む）に周知し、社外へ公開します。

制定日：2009年1月20日

改定日：2020年1月20日

日野屋貿易株式会社  
代表取締役社長 武山照夫

## II. 登録事業所の概要

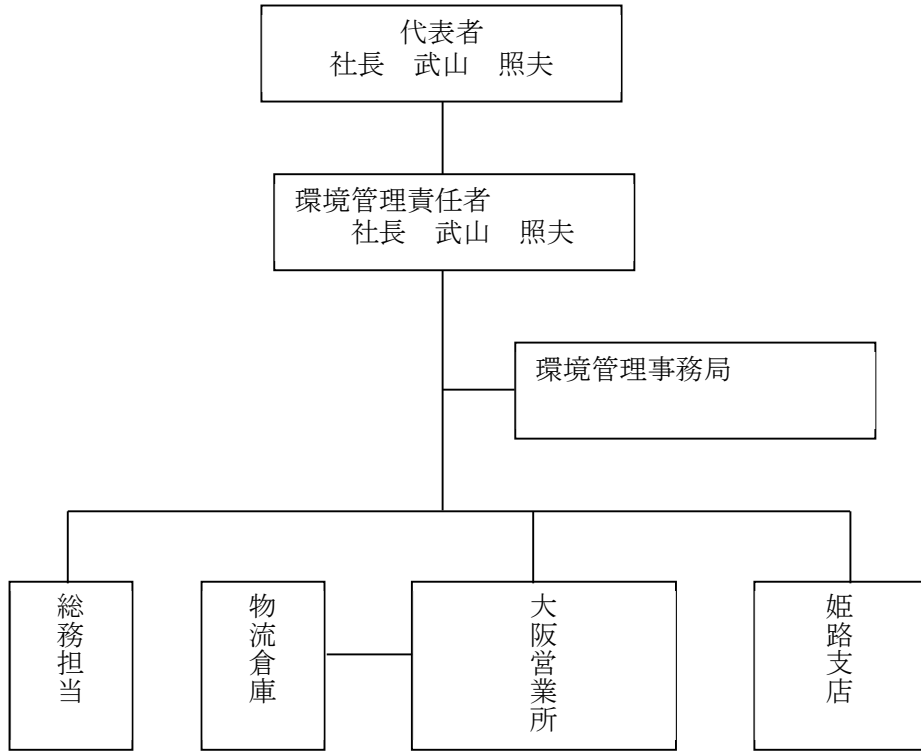
1. 事業者名及び代表者名  
日野屋貿易株式会社  
代表取締役社長 武山照夫
2. 所在地  
本社／大阪営業所 〒541-0045 大阪市中央区道修町 1-2-11  
姫路支店 〒670-0956 姫路市安田 3-100
3. 環境管理責任者名及び環境管理事務局担当者名  
責任者 代表取締役社長 武山照夫 TEL06-6231-6331  
担当者 総務課 前花美穂 TEL06-6231-6331
4. 事業の概要  
設立 昭和22年8月  
資本金 34百万円  
売上額 約660百万円(2025年度)  
従業員数 本社／大阪営業所…6名 姫路支店…4名  
延床面積 本社／大阪営業所 118.80㎡ 姫路支店 51.61㎡  
営業内容 商社 取扱商品…物流資材(コンテナ、台車、パレット、ボビン等)、  
工業薬品、プラスチック成型品、LED、自動車用品等  
事業年度 1月21日～翌年1月20日(活動対象期間は1月1日～12月31日)
5. 認証・登録の事業活動・対象事業所  
事業活動 : 物流包装梱包資材・環境関連商品・自動車用品等の仕入販売  
対象事業所: 本社・大阪営業所、姫路支店

## III. 主な環境負荷の実績

項目	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
二酸化炭素排出量 kg-CO <sub>2</sub> /年	15,535	16,217	19,055	17,064
電力使用量 kwh/年	12,900	14,252	12,900	14,620
ガソリン使用量 L/年	5,218	5,543	5,218	4,617
売上100万円当たり	24.20	28.44	24.20	25.9
売上高 百万円(参考)	670	670	670	660
廃棄物排出量 kg/年	481	399	1,815	567

- 注1) 水使用量は、賃借オフィスで水道が共用となっており、数量を管理できない。  
 注2) 電力の二酸化炭素排出係数は、2022～2023年度は関西電力公表値 2019年度調整後 0.318kg-CO<sub>2</sub>/kWh を使用。2024～2025年度は同 2022年度 0.434kg-CO<sub>2</sub>/kWh を使用。

#### IV. 日野屋貿易株式会社 環境経営実施体制



	役割・責任・権限
代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営に関する統括責任</li> <li>経営における課題とチャンスの明確化</li> <li>環境経営システムの実施及び管理に必要な、人、設備、費用を用意</li> <li>環境管理責任者を任命</li> <li>環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知</li> <li>環境経営目標の設定を承認</li> <li>代表者による全体の評価と見直し・指示を実施</li> <li>環境経営レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営システムの構築、実施、管理</li> <li>法規制等の要求事項登録簿を承認</li> <li>環境経営計画書を承認</li> <li>環境経営の取組結果を代表者へ報告</li> <li>環境経営レポートの確認</li> </ul>
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境管理責任者の補佐</li> <li>環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施</li> <li>「環境関連法規等チェックリスト」の作成</li> <li>環境経営目標・環境経営計画原案の作成</li> <li>環境経営計画の実績集計</li> <li>環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> <li>環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)</li> </ul>
部門長	<ul style="list-style-type: none"> <li>自部門における環境経営システムの実施</li> <li>自部門における環境経営方針の周知</li> <li>自部門の従業員に対する教育訓練の実施</li> <li>自部門の環境経営目標及び環境経営計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>特定された項目の手順書作成及び運用管理</li> <li>自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト・訓練・記録</li> <li>自部門の問題点の発見、是正、予防処置</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営方針を理解と環境への取組の重要性を自覚</li> <li>決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加</li> </ul>

## V. 環境経営目標及びその実績

### (1) 中期目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
	基準年度(実績)	目標	目標	目標
二酸化炭素 の削減 kg - CO <sub>2</sub>	17,712	17,535 (1%削減)	17,358 (2%削減)	17,181 (3%削減)
電力の削減 kWh	12,900	12,771 (1%削減)	12,642 (2%削減)	12,513 (3%削減)
kg- CO <sub>2</sub>	5,598	5,542	5,486	5,430
ガソリンの削減(L)	5,218	5,166 (1%削減)	5,114 (2%削減)	5,061 (3%削減)
kg-CO <sub>2</sub>	12,114	11,993	11,872	11,751
ガソリン燃費向上 km/L	14.19	14.20 0.01km/L 向上	14.21 0.02km/L 向上	14.22 0.03km/L 向上
廃棄物再利用率	100%	100% (現状維持)	100% (現状維持)	100% (現状維持)
節水意識向上 節水努力	節水標語貼付 2件	節水標語貼付 (新標語2件)	節水標語貼付 (新標語2件)	節水標語貼付 (新標語2件)
グリーン購入推進	情報収集9件	情報収集10件	情報収集11件	情報収集12件
ワンウェイ容器→リターナブル容器紹介販促	紹介販売71件	紹介販売72件	紹介販売73件	紹介販売74件
リサイクル原料 使用製品の紹介販促	紹介販売31件	紹介販売32件	紹介販売33件	紹介販売34件
その他環境関連 商品紹介販促	紹介販売41件	紹介販売42件	紹介販売43件	紹介販売44件

注1) 二酸化炭素排出係数は関西電力 2022 年度調整後 0.434 kg-CO<sub>2</sub>/kWh を使用。2023 年度電力による二酸化炭素排出量もこの係数にて再計算。注2) 廃棄物はすべて一般廃棄物である。注3) 廃棄物再利用率：分母は廃棄物総重量。分子はダンボール等再生可能資源の合計重量。注4) 当社は化学物質を使用していない。従来取扱していた洗浄剤ペトロセーフゾル（微量の PRTR 対象物質を含む）は現在取扱中止。注5) 排水は把握できないため行動目標とした。

(2) 対象期間 (2025 年度) の実績

項 目	2023 年度 (基準 年度)	2025 年度		評 価 結果と今後の方向 (次年 度の目標及び計画)
	実 績	目 標	実 績	
二酸化炭素 の削減 kg - CO <sub>2</sub>	17,712	17,358 (2%削減)	17,064 ○達成 102%	空調管理、燃費向上など 更に社員の意識向上をは かる。
電 力 の 削 減 kWh	12,900	12,642 (2%削減)	14,620 ××大幅未達 成 84%	異常な暑さのため冷房を 強化した。今後は窓の適 宜開閉など低減に取り組 む。
kg- CO <sub>2</sub>	5,598	5,486	6,435	
ガソリンの削 減 (L)	5,218	5,114 (2%削減)	4,617 ○達成 110%	営業車が 1 台一時期稼働 休止したこともあり減少 した。むしろ燃費向上に 重点を置いている。。
kg-CO <sub>2</sub>	12,114	11,872	10,719	
ガソリン燃費向上 km/L	14.19	14.21 0.02km/向上	13.26 ×未達成 93%	エコドライブ 10 のすすめ を今後とも徹底する。
廃 棄 物 再 利 用 率 (可燃ゴミ除く)	100%	100% (現状維持)	100% ○達成率 100%	廃棄物はほぼ全量再資源 化出来ている。継続を努 力する。
節水意識向上 節水努力	節水標語貼付 2 件	節水標語貼 (新標語 2 件)	新節水標語 貼付 2 件 ○達成率 100%	洗面所、手洗に管理会社 とも協力して掲示した。 今後も適宜掲示する。
グリーン購入推進	情報収集 9 件	情報収集 11 件	情報 11 件 ○達成率 100%	自社購買も行いたいのが何 れも価格が高い。
ワンウェイ容器→リタ ーナブル容器紹介販促	紹介販売 71 件	紹介販売 73 件	74 件 ○達成率 101%	当社本来の業務である。 今後は折畳コンテナ等ア イテムを増やす。
リサイクル原料 使用製品の紹介販促	紹介販売 31 件	紹介販売 33 件	48 件 ◎達成率 145%	再生原料、成型品は仕入化 価格が高いが、今後も営業 として取組む。
その他環境関連商品 紹介販促	紹介販売 41 件	紹介販売 43 件	45 件 ○達成率 105%	今後は LED の新アイテム など増やしていく。

- 注1) 二酸化炭素排出係数は関西電力 2022 年度調整後 0.434kg-CO2/kWh を使用。
- 注2) 廃棄物は全て一般廃棄物である。
- 注3) 廃棄物再利用率：分母は廃棄物総重量。分子はダンボール等再生可能資源の合計重量。
- 注4) 当社は化学物質を使用していない。
- 注5) 排水は把握できないため行動目標とした。
- 注6) 凡例 ◎大幅達成（115%以上）、○達成、△やや未達成（97～100%未満）、×未達成、  
××大幅未達成（85%以下）。

## VI. 環境関連法規制等の遵守状況

法的義務を受ける主な環境関連規制は次の通りである。

遵守すべき事項	適用される事項	評価
毒物及び劇物取締法	毒物劇物一般販売登録及び毒物劇物取扱責任者を置く	遵守
資源有効利用促進法	パソコン廃棄時適正処理	廃棄無し
家電リサイクル法	エアコン、冷蔵庫廃棄時適正処理	廃棄無し
自動車リサイクル法	廃車時適正処理（引取業者、リサイクル費用）	廃棄無し
自動車 NO <sub>x</sub> ・PM 法	自動車 NO <sub>x</sub> ・PM の削減努力義務	適合車の使用
廃棄物処理法	産業廃棄物、事業系一般廃棄物の適正処理	※下記

※許可を得ている運搬、処理業と書面で契約をする。

環境関連法規制等の遵守状況の定期評価の結果、環境法規制の逸脱はありませんでした。過去3年間に亘って違反や訴訟はありません。なお関係当局より違反等の指摘はありません。

## VII. 代表者による全体評価と見直し・指示

二酸化炭素の削減は、合計では目標を達成した。電力の削減については、空調管理の徹底など努力したが、猛暑のため冷房を強化し、また換気のため窓を開けて冷暖房を行ったため未達成となった。今後は窓のこまめな窓の開閉など工夫し削減に努める。ガソリンの削減目標については、営業車が1台一時期稼働休止したこともあり目標を達成した、燃費はこれが限界とも思えるが、今後も車両入替も検討し、また燃費管理を更に推進し運転者の意識を高めていく。廃棄物排出量は殆どすべてが再利用可能である。廃棄物再利用率は社員の意識が向上し、再利用率ほぼ100%をキープしている。環境配慮製品関連4項目（グリーン購入推進、ワンウェイ容器→リターナブル容器紹介販促、リサイクル原料使用製品の紹介販促、その他環境関連商品紹介販促）については、特にリサイクル原料使用製品の販促に力を入れ、それぞれ達成した。今後は更に情報収集、商品の知識習得とPR、取扱アイテムを増やすなど販売促進を進めていく。今後は売上及び環境改善効果が大きく見込める植物工場用LEDの普及に注力していく。総じてより積極的に環境改善活動に取り組む。環境経営方針・目標・計画及び実施体制について変更の必要はありません。

以上

2026年3月31日

代表取締役社長 武山照夫

## VIII. 私達は事業活動を通じて環境改善を目指します。

### 環境配慮商品例



#### ①リターナブル容器

- ・プラスチックダンボール製。
- ・使い捨て容器からの切替えに。
- ・セットアップ、折り畳みがワンタッチ。
- ・リベットもプラスチックで再生容易。



#### ②リターナブル容器

- ・発泡プラスチックシート製。
- ・ワンウェイ容器からの切替えに。
- ・折り畳んで完全フラットになります。
- ・紙粉が出ない。水気に強い。



#### ③廃プラ再生原料

- ・盤木（船体架台）、擬木など。
- ・ポリエチレン再生原料使用。
- ・写真は H350×W350×L 1500mm。
- ・森林資源からの切替えに。



#### ④特定フロン・エタン代替

- ・工業用洗浄剤「アモレア AS-300」。
- ・オゾン層破壊係数極めて低い。
- ・毒物劇物法、有機則、消防法等非該当。
- ・PRTR 法非該当。



#### ⑤ LED

- ・直管型、蛍光灯代替
- ・シンプル設計 → 低価格実現
- ・一般工場、野菜工場、植物工場
- ・消費電力大幅削減